

統 計

米国乗用車材料の予測

材 料	1980		1985		1990		80~90 変動(%)
	%	kg	%	kg	%	kg	
銅	57.6	862	59.3	726	57.8	590	-32
鋳鉄	15.2	227	11.1	136	11.1	113	-50
アルミニウム	3.6	54	5.5	68	8.9	91	+70
プラスチック	6.1	91	8.9	109	13.3	136	+50
ガラス	2.7	41	2.6	32	2.2	23	
その他	14.8	222	12.6	154	6.7	68	
計	100.0	1497	100.0	1225	100.0	1021	

[出典：鉄鋼新聞 (S. 59. 1. 27)]

この表はミシガン大学がアーサーアンダーソン社に依頼して行つたデルファイ法による乗用車用材料の予測である。車両重量が10年間に、1.5tから1tに軽減される結果、鋼材は構成比は変化しなくても、使用原単位は32%も減少する。鋳鉄は構成比も低下するため、原単位は半減する。アルミニウム、プラスチックは急増する。構成比が倍増以上であるため、車両重量の軽減にもかかわらず、原単位ではそれぞれ70%、50%の大きな伸びを示す。

(日本鋼管(株)京浜製鉄所 荒木健治)

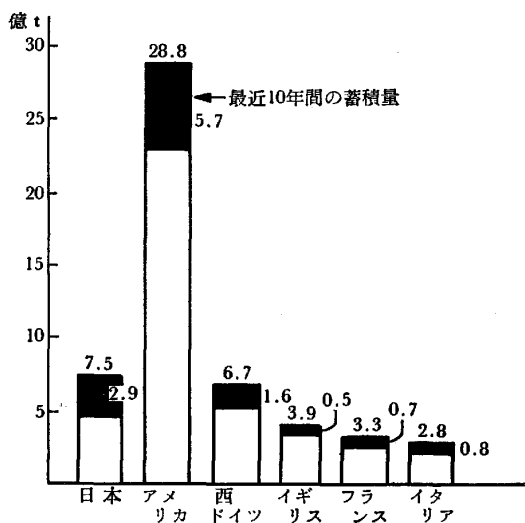
統 計

鉄鋼蓄積量の国際比較

この統計は日本鉄鋼連盟の労作であり、各国から大きな関心と評価を得た経緯があるものとのことである。さてこれを見て皆さん何をイメージするであろうか。数字は日本の鉄鋼蓄積量について ①最近10年間の伸びが最高、②1人当たりの量はアメリカの1/2であるがフランスを抜きイギリスにせまつている。③平地当たりでは他に比べ圧倒的に多い、ということを示している。

これらの値からある人はいわゆる電化製品に囲まれた「狭いながらも楽しい我が家」を想像するかも知れない。一方同じ数字から「うさぎ小屋」の中に家電製品があふれ窒息しそうになっている家庭を思ふかべる人もいよう。また一步外へ出れば狭い国土の中、立体的な高速道路が通り、高性能の車がすすいと走り廻る光景をイメージする人もいれば、慢性的な交通渋滞で道路上に車が敷きつめられているような状況を想像する人もいよう。

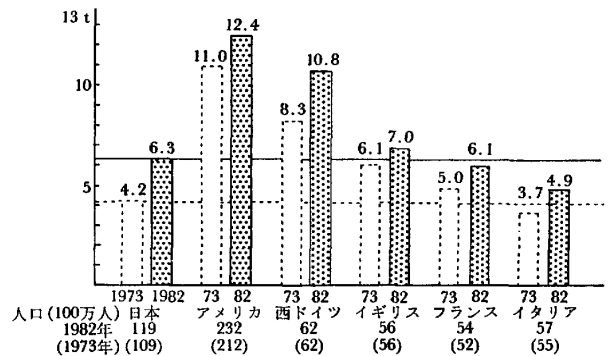
統計値は料理でいえばまだ素材、これをいかに美味珍味に仕上げるかは料理人である皆さんの腕しだいである。



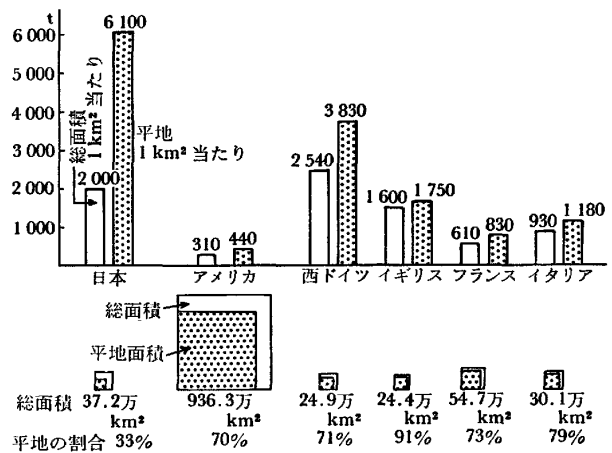
第1図 先進6カ国の鉄鋼蓄積量

10年後、20年後どうなるか、この数字をもとにしていろいろと料理してみたらいかであろう。1人当たりの蓄積量が現在のアメリカ並みに約2倍になつた時、鉄鋼はどこに貯えられるであろうか。平地がなければ、山か海かまたは空か、「多勢の船頭が船(鉄)を山に押し上げる」図などを想像するのもまた楽しいのではないか。その他は皆さんの御想像にお任せしよう。

(日本鋼管(株)中央研究所 原 富啓)



第2図 先進6カ国の人口1人当たりの鉄鋼蓄積量



(注) 平地面積は国連食糧農業機構 (FAO) 「Production Yearbook」により、森林部分を除く農地、市街地、河川、荒地等という

第3図 先進6カ国の面積1km²当たりの鉄鋼蓄積量 (1982年)

(出典：鉄鋼界報 1984. 3. 1・11 No. 1322)